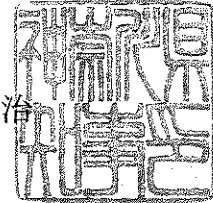


N協第1380号
令和4年3月9日

神奈川県ボランティア活動推進基金審査会
会長 中島 智人 様

神奈川県知事 黒岩 祐治



令和5年度事業実施分協働事業負担金の「課題」の設定
について（諮問）

標記について、かながわボランティア活動推進基金 21 条例第 8 条第 1 号の
規定に基づき諮問します。

問合せ先
NPO協働推進課
NPO支援グループ 的場
電話 045-210-3703

令和5年度事業実施 提案課題一覧

No.	課題名	趣旨	提案所属
1	県営団地の空き住戸等を活用した、団地内コミュニティの活性化	<p><現状></p> <p>県営団地では、65歳以上の高齢者が入居者の約半数を占めるなど、高齢化が著しく進行しており、それに伴い、自治会活動に困難をきたす団地もあるなど、コミュニティ活力の低下が課題となっている。</p> <p>こうしたことから、県では、2018年3月に「神奈川県県営住宅健康団地推進計画」を策定し、「だれもが安心して、いきいきと生活できる健康団地への再生」を基本方針として、団地内コミュニティの活性化等に取り組んでいる。</p> <p>具体的には、県営住宅の空住戸を整備して、団地自治会・社会福祉法人・NPO等に貸出し、団地住民・周辺住民の皆様にご利用いただいている。(現在16団地)</p> <p><課題></p> <p>ただ、広域行政を担う県では、空住戸によるコミュニティ活動の場を提供するにとどまり、コミュニティ活動については、団地自治会等に頼る部分が多く、住民の多様なニーズ(高齢入居者の見守り、買い物支援、自治会活動の支援、高齢者・子ども・外国人の交流等)に対応するにはNPOとの協働が不可欠である。</p> <p>そこで本課題を課題として提案し、広くボランティア団体を募りたい。</p>	公共住宅課
2	ダムに流れ着いた流木及び流木を破碎したチップの利活用の推進による環境負荷の低減	<p><現状></p> <p>城山ダム・相模ダム・三保ダムには、台風などの降雨によって多量の流木が流れ着き、流木等はダム放流や水道用水の取水等に支障を及ぼすこともあるため速やかに引き揚げている。</p> <p>※10年平均引揚量 城山：1,653m³ 相模：2,390m³ 三保：862m³</p> <p>引揚後、流木等に混入しているゴミ等を分別した上で、一部の流木はチップ化して無料で配布するなど有効活用を図っているが、そのほかの流木は廃棄物としての処理や焼却処分せざるを得ない状況となっている。</p> <p>※チップ化率 城山：52% 相模：18% 三保：71%</p>	利水課

		<p><課題></p> <p>流木を焼却処分すると、CO₂の発生のほか焼却灰の埋立処分等で環境に負荷を与えるため、流木を循環資源として幅広く有効に利活用していくことが課題となっている。</p> <p><想定する事業・取組の例></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 流木は、薪としての熱源利用や木炭化による再利用、流木アートや工芸品、アクアリウムに利用することが想定される。 ○ 粗めの流木チップは、雑草防止等の効果に繋がるため、緑地保全や里山保全活動、遊歩道整備や下草刈り後の利活用が想定される。 ○ 細かめの流木チップは、肥料と混ぜて植物の生長促進に繋がるため、農業振興等での利活用が想定される。 ○ 更に、これらを通じた環境教育にも期待ができる。 	
--	--	---	--